

つながりの中でくらす  
望まれた人として生きる  
自分らしく生きていく



No. 79

2024年1月発行



あけまして おめでとうございます。

昨年はお世話になりありがとうございました。  
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

近年、あちこちで「居場所」の必要性が言われています。以前から、各地で居場所の取り組みは行われてきていますが、今なぜ、こんなに「居場所」が必要とされるのでしょうか。当法人でも、以前から居場所作りの活動がしたいと思っていて、2019年の15周年記念講演会を皮切りに取り組む予定でしたが、なかなか始められず、5年経ってようやく一歩を踏み出そうとしています。

居場所とはいったい何なのでしょう。私の思う「居場所」は、ありのままの自分を受け入れてくれるところ、ありのままの自分でいられるところ、自分を否定されないでアナタがアナタだから傍にいるよと言ってくれるところ。安心できる人や場所です。

居場所が必要とされるということは、子どもたちにとって安心できる人や場所が少なくなってきたということだと思います。コロナ禍で、不登校の生徒や、自傷や自殺をする子どもたちが増えたと聞きます。社会全体が不安な状態になり、子どもたちが脅かされ、しんどくなっているようです。学校は評価をされる場所だから、子どもたちは頑張らなければならなくて、安心できる場所ではないという意見もあります。なるほどと思います。けれど、学校はずっと成績で評価をしてきました。私の娘は、重度の障害をもちながら、小学校から高校まで公立の普通校に通いましたが、成績はいつも最下位でした。それでも娘は学校が大好きでした。勉強ができないことを責められることなく、ありのままの自分を受け入れてくれる友達や先生がいる学校は、娘にとって安心できる居場所だったのだと思います。学校での成績評価が人間評価のようになってしまうことが問題なのかもしれません。娘は学校ですいぶん頑張っていたと思います。頑張ってもできないことが多くあるけれど、自分がやりたくて頑張ってきました。娘が幼いころ、娘の居場所を探さねばと思っていた私は、居場所は作っていくものだと言われ、娘に教えられました。

放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」に通ってくる子どもの保護者の方々から、時々、「ほうぷが居場所になっている」と聞きます。安心できる・自分が出せる場になっているようです。学校でも施設でもない場所、私たちは既に居場所を作ってきたのだと思います。けれど、今、放課後等デイサービスも、様々な要請や制約を受けて、指導や訓練だけの場にされてしまい、居場所でいられなくなっていく不安を感じます。

子どもたちから居場所を奪ってきたのは、この社会を作っている私たち大人だと痛感します。その私たちが子どもの居場所作りを言うのもなあと自戒を込めて、子どもたちと一緒に居場所作りをしたいと思っています。

(向井裕子)



## 放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

秋から年末にかけて、ハロウィン、ほうぷ商店、遠足、防災学習、からだほぐしや、クリスマス会とイベントが盛りだくさんでした。定例のグループワーク、創作活動、音楽活動も行いました。最後に、大掃除&お楽しみ会で締めくくりました。

平日の活動については、スタッフミーティングで前日の振り返りや当日のスタッフの動きの確認等に加えて、子どもの支援計画に基づいた注意点を確認し、仕掛けていく遊びを提案しあっています。計画的主体的におやつ作りに取り組めるように、「おやつ作りカレンダー」を子どもたちと一緒に作りました。ういろや大福などにもチャレンジしました。

10月に中学3年生のワタシ×ミライワークショップを行いました。中学は支援学校か地域の学校かと進路を悩まれて、ご両親は地域の中学校へ進学を決められましたが、中学校の3年間で大きく成長しました。ワークショップの後、お母さんが、「自分が勝手に線引きしていたことに気づいた。ここまでしかできないというように思っていた。世界が広がった気持ちでした」とおっしゃったのが印象的でした。

10月～12月、大阪経済大学のゼミ生さんたちが、ボランティアに来てくれました。学生さんたちが考えた活動を楽童ほうぷで実践するという課題に取り組んでいられました。また、摂南大学の建築を学ぶ学生さんが、放デイの建築の研究で来所されました。学生さんたちと、今後もいい形で繋がっていければと思います。



### ハロウィン

10月21日(土) 参加者：子ども11名 学生ボランティア7名

子どもたちは仮装してパーティを楽しみました。オリジナルランタン作りをしたり、ダーツゲームをしたり、ピニャータ(張り子の中にお菓子が入っていて、張り子をたたき割ってお菓子を取り出す)をしたりして楽しみました。また、ほうぷ内に隠されたポケモンを探したり、お友達のダンスで盛り上がりたりして、楽しい時間を過ごしました。



## ほうぷ商店

10月 28日(土) 参加者：子ども9名 学生ボランティア4名

今回も、近隣の子どもたちやご家族がたくさん来店してくださいました。これまでの駄菓子屋さん、雑貨コーナーに加え、新しくガチャコーナーを作りました。ガチャの中にはプラバンお守りやヘアゴムが入っています。「大当たり出た！ やったー！」と喜ぶ子どももいました。ハロウィンが近かったので、オバケ探しのゲームも行いました。オバケを全種類見つけるために何回も挑戦していました。ほうぷの子どもたちの店員さんも板についてきました。



## ニフレル遠足

11月 25日(土) 参加者：子ども13名 学生ボランティア3名

NIFREL (ニフレル) へ遠足に行きました。ニフレルは、万博公園にある水族館で、生きものの美しさや不思議さを体感できる施設です。京阪電車とモノレールを乗り継いで行きました。子どもたちは、窓から見える景色に大興奮でした。ニフレル館内では、魚の数を数えたり、イソギンチャクと一緒に揺れてみたり、目の前で見るとホワートタイガーやワニに大興奮でした。空間アートを楽しめるコーナーでは次々に変わる光のシャワーを楽しみ、隠れた生き物を探すコーナーでは「どこにいる？」とみんなで話しながら一生懸命に探していました。



## 防災学習＜公衆電話体験＞ & みんなで逃走中

12月 2日（土）参加者：子ども10名 学生ボランティア4名  
 防災訓練の一環として、公衆電話の使い方をみんなで確認しました。「もしもし〇〇です。今〇〇公園にいます。」と自分の安否を伝える練習をしました。その後は「逃走中」をしました。ハンターに捕まらないように気をつけながらミッションに挑戦していました。



## クリスマス会

12月23日（土）参加者：子ども11名 親子兄弟13名 学生ボランティア5名  
 午前中は「脱出ゲーム」をして身体を動かして遊びました。午後は、保護者さんと一緒に参加する子どもたちも加わってにぎやかにクリスマス会を開催しました。小学生や中学生の女子によるダンスに続き、有志たちが脚本から作った映像の上映をして、2023年の日々の様子の写真を流しました。子どもたちのいい顔がいっぱいです。その後、ビンゴ大会をして景品をゲット！最後に、スタッフの手作りおやつを食べました。



## ● 法人内の活動報告 ●

- 11月 2日(木) 法人臨時総会
- 11月 26日(日) オンライン研修「SOSと子ども」(講師:川口正義氏)受講
- 11月 28日(火) 消防点検&火災報知機の使い方研修(職員)
- 11月 30日(火) シェアハウス誕生日会
- 12月 10日(日) オンライン研修「自傷自死と子ども」(講師:深沢美里氏)受講
- 12月 14日(木) 虐待防止委員会(ほうぶ)
- 12月 18日(月) オンライン研修「障がい者の人権と福祉実践」受講
- 12月 21日(木) 摂南大学の学生(建築専攻)の施設&活動見学
- 12月 14日(木) 大阪経済大学 ゼミ生ボランティア受け入れ  
~ 6日間

ほうぶよるカフェ、1月から  
毎月第3金曜日に開催予定。  
ボランティア、カンパ、  
いろいろ募集中です!

## ● 地域活動報告 ●

- 11月 12日(日) おやこひろば ほうぶ「おながくひろば」(ほうぶ)
- 11月 14日(火) ブックスタート(ほうぶ)  
旭区地域自立支援協議会 事業所連絡会(児童)(旭区役所)
- 11月 15日(水) 旭区地域自立支援協議会 本会定例会(旭区役所)
- 11月 22日(水) 地域活動協議会福祉部会
- 11月 24日(金) 子ども情報研究センター理事会(オンライン)
- 12月 1日(金) 旭区子育て支援「あさひの輪」定例会(旭区社会福祉協議会)
- 12月 2日(土) NPO 法人ラルゲット職員研修講師
- 12月 8日(金) 和んで座談会参加(旭区民センター)
- 12月 15日(金) SW 基礎実習ゲストスピーカー(同志社大学)
- 12月 18日(月) 清水地域子育てサロンクリスマス会(清水地域交流センター)
- 12月 19日(火) 旭区地域自立支援協議会 こども部会(旭区役所)
- 12月 20日(水) 旭区地域自立支援協議会 相談支援部会(旭区役所)
- 12月 25日(月) 地域活動協議会福祉部会世代間交流打合せ(清水地域交流センター)

## 清水みんなの音楽会

### ～ 清水校下地域活動協議会 世代間交流事業 ～

日時: 1月26日(金) 10:30~11:30 会場: さくら苑地域交流スペース  
Buono2633 のみなさんによる音楽会です。お子さま連れからご年配の方まで、  
どなたでもご参加いただけます。楽しいひとときを過ごしましょう!

参加費無料

2023年は暗いニュースが多く、心がしめつけられるような年でした。大人も居場所を必要としているのかもしれませんが、楽しいだけで暮らしていくことはできなくて、頑張らなければならないことがたくさんあります。ありのままのあなたを受け入れてくれる場所や人に出会えれば、そこでパワーを溜めて、わたしはワタシと前を向いて生きていけると思います。

今年があなたにとって良い年となりますように。(む)

